



企画展示のご案内

憲政記念館開館50周年を記念し、「立憲国家への道のり」と題して、令和4年10月1日～令和5年6月29日まで3期に分けて展示しています。

－（中期）自由民権運動の展開と 国家体制の形成－ ～令和5年3月30日（木）

自由民権運動の高揚と停滞、政府の主導権を握った伊藤博文を中心として進められる立憲国家への歩みを関係資料で紹介しています。錦絵「地方官会議開院式図」（三代広重画）や「国会開設の勅諭」（国立公文書館原蔵・複製）のほか、岐阜の遊説先で自由党総理板垣退助が遭難する光景が描かれた錦絵「板垣君遭難之図」（豊宣画）や第一次伊藤内閣閣僚が描かれた錦絵「皇国高官鑑」（国保画）などを展示しています。



錦絵「板垣君遭難之図」（豊宣画）

－（後期）帝国憲法の制定から 議会召集へ－ 令和5年4月1日（土）～ 6月29日（木）

大日本帝国憲法制定、第1回衆議院議員総選挙を経て帝国議会の開設に至る時代の様子を関係資料で紹介します。明治天皇が内閣総理大臣黒田清隆へ憲法を授与している場面が描かれた錦絵「憲法発布式之図（複製）」（勝月画）や正副議長を中心に描かれた錦絵「大日本帝国衆議員肖像」（三代国輝画）のほか、「伊藤博文書込憲法草案（複製）」や第1回総選挙で使用された投票箱（展示期間限定）などを展示する予定です。



錦絵「憲法発布式之図（複製）」（勝月画）

もう一つの議会史～国会職員オーラルヒストリー～Ⅲ
清野 裕三さん（その3）

前号では、IPUとは、ラゴスのIPU会議同行、IPU会議に対する印象、IPUを牽引された先生について掲載しました。

<清野裕三>（きよの・ゆうぞう）



昭和48年4月衆議院事務局に入り庶務部人事課、管理部、委員部に勤務の後、昭和53年4月渉外部（現在の国際部）に配属。以後、昭和58年11月在ルクセンブルク日本大使館、平成13年7月核燃料サイクル開発機

構への出向を経て、平成16年7月国際部国際会議課長となる。平成17年9月文部科学調査室首席調査員となり、その後教育基本法に関する特別調査室長、教育再生に関する特別調査室長兼務の後、平成19年7月外務委員会専門員（外務調査室長）となる。平成22年6月30日退職。

【外務省出向】

—— 昭和58年5月に外務省に出向しています。

○清野氏 外務省の国際経済第一課というところは、日本・EC間の経済問題を担当する部署なんですね。今は名前が変わって欧州連合経済室になっているんです。

私は、国際経済第一課の総務班、例えば、国会対応をするだとか、外務省内の問題の横の調整だとか協議だとかをする班に配属されました。

日本・EC間の経済問題というのは、やはり貿易ですから、食料だとか機械だとか文化も含めば、いろいろな分野のやり取りがある。そのう

ちの一つに鉄鋼協議というのがあって、自動車と同じで、日本の鉄鋼製品の対欧州輸出が超過していたんですよ。黒字がたまって、EC側の赤字が積み重なっていたということで、問題だったんですね。

そこで、外務省は、政府ですから、いろいろな機関、民間団体から意見を聴取する機会というのを設けていたんですね。ある日、課長から、こういう会議があるから行ってくださいと言われて、行ったら、民間のもうそれなりの人が複数いるんですね。それで、「え、私、何も知らない…」という状況でした。

その時、国際経済第二課のOECD担当、ここも鉄鋼問題をやっているんですが、たまたまその人が助けてくれたんですよ。よかったです私が代わりに答えますよとか言って。その人をどこで知ったかといったら、ナイジェリアなんですよ、IPUの。現地にいた人なんですね。

杉山さんというんですけども、当時、ナイジェリアの一等書記官でIPUの日本議員団の担当で仕切っていたんです。その人も若かった、私もそれなりに若かったので、親しくなったんですね。

その人は、外務次官になって、それから駐米大使になって、最近引退されましたけれども。

—— 令和2年まで駐米大使をされた杉山晋輔さんですか。

○清野氏 そうなんです。偶然が結構あるんですよ。友人、知遇に恵まれたというのが結構ありまして、ルクセンブルクに行ったのもそうですね。後になって、怖くなった経験談ですけれどもね。

【ルクセンブルク赴任】

—— 昭和58年11月、在ベルギー日本国大使館に配置換えになります。

○清野氏 在ルクセンブルク日本国大使館に併任、ルクセンブルクに駐在、欧州共同体日本政府代表部に併任されました。これは、ルクセンブルクには日本大使が当時いなかったんですよ。駐ベルギー日本大使がルクセンブルク大使に併任されていて公使が臨時代理大使でしたので、そういう辞令になりました。

—— ルクセンブルクというのは当時は公使が実質トップ。ほかの館員の方は。

○清野氏 私が赴任したときは、公使の人がいて、私が二等書記官で入って、いわゆる館員というのはそれだけ。それで、常勤としては、現地雇いの日本人がいて、現地のルクセンブルク人の女性スタッフが2人いて、あとは、大使の車の運転手ですね、それから掃除の人が通ってくる、そういう体制です。たしか、私が赴任したときは、普通のビルの2階にワンフロアを借りていました。

—— まず、日常はどのような業務をされていましたか。

○清野氏 任国、ルクセンブルクの国の動向、政治、経済それから軍事について、新聞情報だとか大使館が雇っている弁護士情報を報告する。資料としては、毎日の新聞だとかニュースだとか、そんなところで

す。余り公電はなく、例えば国会議員がたまに訪問されるようなことがあれば公電に書いて、それで本省に送る。

広報文化活動としては、例えば、現地のルクセンブルク人で生け花をやっている人がいて、その人が結構催物みたいなものやることがあって、そこに日本大使館代表として行ったことが何回かありますね。

あとは、邦人対応。教育関係で割り当てられているのが、1人国費留学生を日本に受け入れるというのがあって、私は、3年の間に3人書類選考した上で、ルクセンブルク人を日本に送り出しました。国費というのは、日本政府が招待するということです。現地の新聞が結構フォローするんです。その人と私が空港で握手して、さあ、行ってらっしゃいというのが新聞の写真に載ったりしました。

【帰国後の国際会議課】

—— 昭和61年11月に帰朝を命じられ、12月に外務省から衆議院に戻り、渉外部（現在の国際部）国際会議課調査係長を任命されます。

○清野氏 外務省への出向前に在籍していたときは列国議会同盟課でしたが、名称が変わっても業務は変わっていませんね。日本・EC議員会議であれば回次が増えたくらいじゃないですかね。

日本・EC議員会議についていうと、倉成正先生のほかに、羽田孜先生がかなり力を入れていらしたんですね。

—— 昭和62年に羽田先生が団長をされていますよね、現地に行ったときに。

○清野氏 日本・EC友好議員連盟

の事務局長を羽田先生がされていたんですね。ですから、お二方の間の連絡というのは物すごく密にされていたと思います。

事務局長ということで、我々も羽田先生のところに職員として御相談に行くということはかなりありましたね。特に日本で開催するときには、接遇のようなことで羽田先生に御意見を聞くというようなことはかなりありましたね。

あの羽田先生と倉成先生の役割というのは本当に大きかったと思いますよ。

—— さて、平成2年7月、課長補佐に昇任、平成4年7月には渉外部渉外課に戻られます。

○清野氏 渉外課は、渉外部に初めて異動したときの第二課の後身ですね。純粋に外国議員団の受入れ、接伴の業務になりますが、接遇の仕方とかは余り変更はないですよ。

ただ、地方視察をした後に東京に戻ってくるんじゃないくて、そのまま地方から離日していただくことに変更しました。

【人事課への異動】

—— 平成9年7月に人事課に異動し、任用係の課長補佐になります。

○清野氏 これだけ長く渉外部、国際部にいて、これから人事課ですというときにはさすがにびっくりしましたね。

任用と言えば、採用それから人の異動ですね。職員のほかに、その頃から出てきた再任用、それから臨時職員だとかの採用、退職。あとは、職員の異動のほかに、外国留学だ

とか国内留学それから出向、そういった人事ですね。

職員の採用については、まあ結構楽しかったですね。どうしてかといったら、例えば大学とかに説明会に行くのは楽しかったです。

【核燃料サイクル開発機構への出向】

—— 次に、核燃料サイクル開発機構への出向、それもワシントンです。

○清野氏 これは、平成13年7月に文部科学省へ出向後、核燃料サイクル開発機構に同省から出向という形で、赴任先がワシントンの事務所でした。

7月1日にすぐ辞令が出てワシントンDCに行くと思っていたら、いつまでたっても東京事務所にいた。

その間に、東京電力の柏崎に見学に行ったり、それから、東海村の原子力施設を見学したり、あとは六ヶ所村も行きましたね。行きたいと言ったら行かせてくれた。

それで、ようやく、2か月ぐらいたってから、ビザ申請をしてくれと。そうこうしているうちに、2001年の9・11¹が起きたんですよ。私はその後の10月に赴任しているんです。

—— 核燃料サイクル開発機構というのはどういうところでしょうか。

○清野氏 1967年設立の動燃、動力炉・核燃料開発事業団が1998年に核燃料サイクル開発機構に改組されました。高速増殖炉もんじゅの原子力発電に関わる研究開発、使用済み核燃料の再処理技術開発、高レベル放射性廃棄物の処理、処分が所管で

¹ 米国同時多発テロ（ハイジャックされた航空機が世界貿易センタービル・国防総省に激突）

す。

—— ワシントンに駐在事務所を置いている意義と、具体的業務をお伺いします。

○清野氏 当然、ワシントンDCは首都だということと議会があるということですね。

アメリカの、いわゆる日本の核燃料サイクル機構のような組織というのは三つぐらいあって、そこに職員が研究員として在籍していたり、出張して行ったりするんですね。あるいは、ワシントンDCで国際会議が開かれるので、東京から来る人のアテンドをする役割が一つあるんです。

もう一つは、アメリカ国内の原子力関係の研究開発の動向をフォローする。核燃料サイクル機構に当たるような研究機関には当然、秘密が多く、ホームページには先端研究が公開されていないから分からない。けれども、業界誌は、インターネットにそういったところの研究状況を結構出すのでフォローする。そうすると、東京本社だとか研究所の人から反響がありましたね。

そのほかに、さっき言った国際会議なりアメリカ国内の会議があるので、その会議に行つて会議の内容をフォローする。さらに法律で厳しく規制されるから、議会の動きというのも重要で、アメリカ人のコンサルタントから情報をもらう。国際会議、コンサルタント、それから業界

誌、こういったところの情報を取つてレポートを書くということです。

—— 清野さんは所長代理でしたが、ワシントンDC事務所というのは何人ぐらいいらっしゃるんですか。

○清野氏 所長と私と、副所長というのがいて、所長と副所長はプロパーの人で、私のポストは本来文部科学省の職員のポストなんです。ほかに会計の日本人の女性がいて、アメリカ人のスタッフが1人いて、合計5人。

—— 随分小規模ですね。

○清野氏 そうですね。出張者にアテンドするというのがメインで、研修や視察に付き添って、資料の和訳や通訳をしました。

衆議院の関係でいえば、日本大使館に在籍する衆議院から出向した書記官が日程アレンジされ、警務部から管理職の衛視の方が出張で来られて米国議会の警務担当部署を訪問されました。通訳をしましたが、役得だったのは、この衛視が米国議会のてっぺんの尖塔に案内されました。めったにないこととかで、米国下院議院警察の方も一緒に登りましたよ。議院警察同士ということで親近感をもたれたようです。ぜひとも衛視には交流を続けてほしいです。

(以下、その4に続く)

※ 清野さんによる英語の国会議事堂案内をYouTube 衆議院事務局チャンネルにある「Tours of the National Diet」(<https://www.youtube.com/watch?v=E4eo-unL8eY>)でご覧になれます。

展示室紹介（その3）～憲政プラザ②～

憲政プラザ内でひとときわ目を引く大きな展示は、帝国議会模型（ジオラマ）です。旧憲政記念館で人気のあった立体ビジョンコーナーの内容を引き継ぎつつ、更に間近で見ることができるよう円筒形に姿を変えたものです。



帝国議会模型

この模型には、1890年（明治23）11月25日に召集された第1回帝国議会の舞台に、①第一次仮議事堂に初登院する新議員、②初代書記官長の曾禰荒助が仮議長を務めて正副議長候補者を選出している衆議院議場、③内閣総理大臣である山県有朋による初めての施政方針演説が行われている衆議院議場、の3つの場面が再現されています。今号では、①の場面を紹介します。

この場面の帝国議会第一次仮議事堂は、麴町区内幸町二丁目（現在の千代田区霞が関一丁目）に新築されました。木造洋風2階建の仮議事堂

が竣工したのは、召集日の直前のことでした。

議事堂正面に向かって右が貴族院、左が衆議院で、初登院する新議員や見物に訪れた民衆、交通整理に当たる警備の巡査など、召集日の様子がひとつひとつ丁寧に生き生きと再現されています。

この日は、秋の好天に恵まれたそうです。背景に描かれた空は、美しい雲の表現を得意とする「雲の神様」こと島倉^{ふちむ}二千六氏の作品です。島倉氏は背景美術の専門画家で、ゴジラやウルトラマンをはじめとする数多くの特撮作品のほか、博物館等の展示作品も手掛けています。

島倉氏の描く空の下、第1回帝国議会の開幕の様子を、是非ご覧ください。



第一次仮議事堂と空

次号も引き続き「憲政プラザ」について紹介する予定です。

【発行人】 野口 幸彦

【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館

【編集責任者】 青山 卯女

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-8-1

TEL : 03-3581-1651



本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。